

今週の為替相場見通し (2017年9月25日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		110.90 ~ 112.72	112.00	110.50 ~ 114.00
ユーロ	(ドル)		1.1861 ~ 1.2035	1.1955	1.1800 ~ 1.2200
(1ユーロ=)	(円)		132.62 ~ 134.40	133.79	132.00 ~ 136.00
英ポンド	(ドル)		1.3450 ~ 1.3659	1.3495	1.3450 ~ 1.3750
(1英ポンド=)	(円)	*	150.14 ~ 152.86	151.26	150.00 ~ 154.50
豪ドル	(ドル)		0.7908 ~ 0.8105	0.7957	0.7800 ~ 0.8100
(1豪ドル=)	(円)	*	88.47 ~ 90.31	89.17	87.00 ~ 91.00

(データ) 先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替営業第二チーム 山本 一暁

(1) 今週の予想レンジ: 110.50 ~ 114.00 円

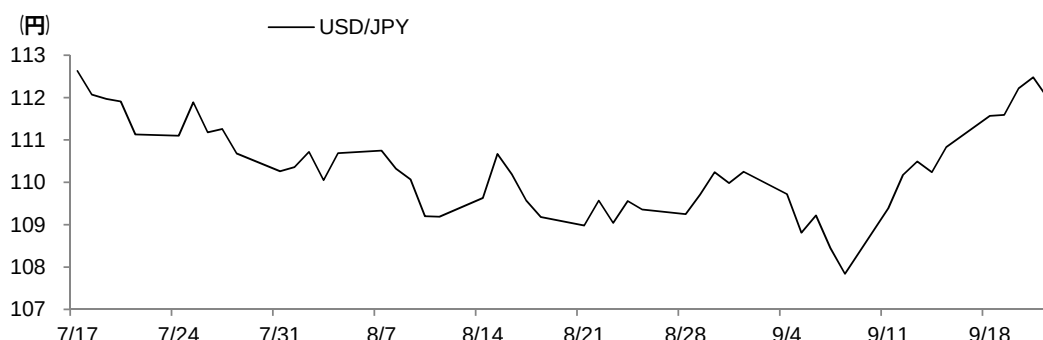
(2) ポイント [先週の回顧と今週の見通し]

先週のドル/円相場は、前半は堅調推移し、FOMC後に一段高となった。週初18日、前週末の底堅い流れを引き継ぎ、週安値110.90円からドル買いやや優勢の展開。リスクセンチメントの改善から北米時間に米株高・米長期金利上昇になると、ドル/円は上昇した。19日東京時間、衆院解散報道に対する日経平均株価の反応はポジティブとなるとドル/円も連れ高となり、本邦輸出勢の売りをこなしながら一時、111.88円まで上昇。北米時間、米8月住宅着工件数が弱含んだことや国連総会の一般討論演説にて米国の北朝鮮に対する強硬姿勢が示されたことを受け、売り戻される場面も見られた。しかし、「米共和党内で暫定的な税制改革に合意した」との報道に111.80円台を回復、下に往って来いとなった。20日、FOMCの結果を見極めたいとの思惑から東京時間、欧州時間ともに110.50円近辺でこう着。注目のFOMCは事前予想通り政策金利据置き、バランスシート縮小の10月開始を決定。直後、ドル/円は111.11円まで急落も、政策金利見通し(ドットチャート)で2017年内の追加利上げ1回、2018年は3回と前回(6月)内容を踏襲したことがタカ派と捉えられると米金利が上昇、ドル/円は急伸し112円ちょうどを上抜け。イエレンFRB議長講演でも特段ハト派な発言が出なかったことで上値を伸ばした。21日、東京時間、日銀金融政策決定会合は現状維持となり週高値の112.72円をつけた。欧州時間序盤、米大手格付け会社による中国格下げ報道に一時反落するも、間もなく112円台半ばを回復。22日、東京時間、北朝鮮による水爆実験示唆報道を受けて、円買いが強まる展開。短期筋のストップロス巻き込みながら一時112円を下抜けた。ただ、北米時間に米金利が低下幅を縮めると徐々に買い戻され、112.00円で越週した。

今週のドル/円相場は、底堅くも下値リスクをはらむ展開を予想。今週は連日、各地区連銀総裁の講演が予定されており、主要メンバーの発言は注目される。経済指標は、各地区連銀サーベイや28日(木)4~6月期GDP(3次速報)、29日(金)米8月PCEコアデフレーター、米9月ミシガン大学消費者マインドなどが発表される。先週のFOMCを経て、FRBの金融正常化パスは変更なしである旨が確認され、税制改革に関するアナウンスへの期待感もあることからメインシナリオとしてはドルの底堅さを予想する。しかし、同時に、FOMCでは短期のインフレや中立金利の見通しは下方修正されており、市場では米国のインフレ鈍化を懸念する向きも多い。従って、各地区連銀総裁講演でのハト派寄りコメントや、PCEコアデフレーターの悪化によるドル戻り売りをリスクシナリオとしたい。また、引き続き北朝鮮を巡る地政学リスクを受けた円買いにも警戒が必要であろう。

(3) 先週までの相場の推移

先週(9/18~9/22)の値動き: 安値 110.90 円 高値 112.72 円 終値 112.00 円



(資料) ブルームバーグ

2. ユーロ

為替営業第二チーム 橋 雄史

(1) 今週の予想レンジ: 1.1800 ~ 1.2200 132.00 ~ 136.00 円

(2) ポイント [先週の回顧と今週の見通し]

先週のユーロ/ドル相場はFOMC後に一時急落するが、週を通してみれば堅調推移が継続。週初18日に1.19台前半でオープンしたユーロ/ドルは、東京市場が休場で材料難の中、1.19台半ばを挟んで方向感に欠ける展開。19日はユーロ/円が上昇する動きにユーロ/ドルは1.20近辺まで連れ高となるが、米共和党議員から税制改革に前向きなコメントがあり、ドル買いが強まる展開に1.19台半ばまで下落。20日はFOMCの政策決定発表直後に一時週高値となる1.2035をつけたが、政策金利見通し(ドットチャート)で年内の利上げシナリオが維持されるとドル買いが優勢となり、ユーロ/ドルは週安値1.1861まで急落した。21日はメイ英首相がEU離脱に伴う清算金の支払いを受け入れたとの報道を受け、ハード・ブレクジットに対する懸念が後退するとポンドの上昇に連られる格好で1.19台半ばまで上昇。22日にはユーロは対ドルでの買い戻しが強まり一時1.12台を回復するが、英国格付の格下げを受けてポンド売りが加速するとユーロも小幅連れ安となり、結局1.19台半ばで越週した。一方、対円は週を通じて堅調推移。週初18日は132円台後半でオープン。一時週安値132.62円をつけるも、前週末のリスクオフムードの巻き戻しからクロス円全般が堅調推移となり、133円台半ばまで上伸する。19日は安倍内閣の解散報道を受けて日経平均株価が大きく上昇する中、円安も加速したことでユーロ/円は続伸し、一時134.16円まで上昇。20日はFOMC結果を受けて133円台前半まで下落するも、ドル/円が堅調推移する中で徐々に下値を切り上げ、21日には前日の流れを引継いで134円台を回復。22日にかけても堅調推移が継続し、週高値134.40円をつけた。引けにかけてはじりじりと上げ幅が縮小し、結局133円台後半での越週となった。

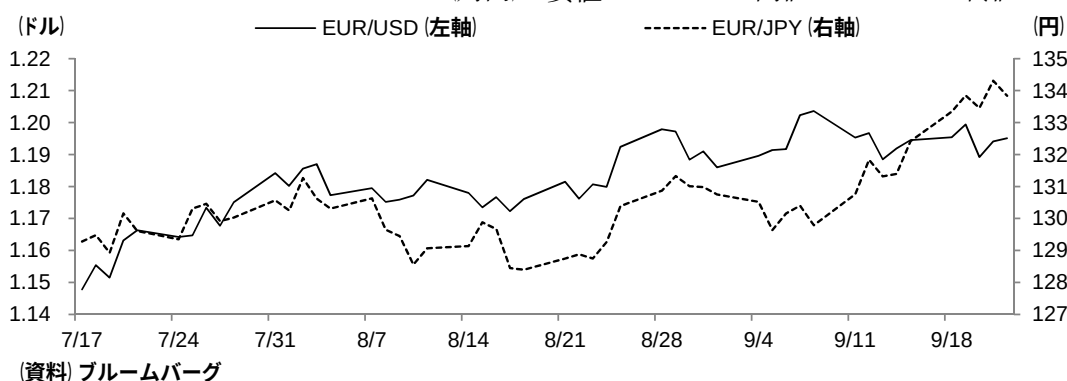
今週のユーロ相場は各種材料を消化すべく、様子見の展開を予想する。先週のユーロ相場はFOMC直後には一時急落を見せたが、10月のECB理事会では量的緩和縮小に向けた議論がなされることが予定されており、欧米の緩和縮小路線の方向感に変化はなかったことから、ユーロ相場も総じて堅調推移を継続している。政治面についてもドイツでは24日に連邦議会選挙が実施され、メルケル首相率いるキリスト教民主・社会同盟が他党を引き離すことが濃厚となり、メルケル氏の4選目再選が有力視されるなど、欧州政治情勢の安定が足許のユーロ相場の下値をサポートしている。かかる中、今週は相場の材料となりそうなイベントを多く控えており、欧米では25日にメルシュECB理事・ドラギECB総裁・クレーECB理事の講演、26日にイエレンFRB議長の講演、28日(木)にはカーニーイングランド銀行(中央銀行、BOE)総裁の講演を控えるなど、各国の高官発言に注目が集まる。また本邦では安倍内閣の解散表明に注目が集まる他、北朝鮮情勢についても目が離せない状況が継続。経済指標についても28日にはユーロ圏9月経済信頼感、29日(金)にユーロ圏9月消費者物価指数(HICP)の発表があり、各種材料の結果にユーロ相場は振らされる展開となろう。ユーロ相場は堅調推移の継続を予想するも、今週は方向感の出にくい展開を予想したい。

(3) 先週までの相場の推移

先週(9/18~9/22)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1861 高値 1.2035 終値 1.1955

(対円) 安値 132.62 高値 134.40 終値 133.79



3. 英ポンド

(1) 今週の予想レンジ: 1.3450 ~ 1.3750 150.00 ~ 154.50 円

(2) ポイント [先週の回顧と今週の見通し]

先週の英ポンド相場は、概ね横ばい。対ドルでは、20日の米FOMC声明文の発表直後や22日のメイ首相のEU離脱に関する方針演説直後に一時的な下落も見られたが、その後は反発し横ばい。対円、対ユーロでも、概ね横ばいの結果となった。週明け18日の英ポンドは、14日と15日の大幅な上昇の調整で小幅下落。14日に開催された9月金融政策委員会 (MPC) の金融政策サマリーにおいて、「過半数のMPCメンバーは向こう数か月で金融緩和の縮小を見込む」と記述されていたことなどから、英ポンドは主要通貨対比大幅に上昇し、2日間でポンド/ドル1.32程度から1.36程度まで上昇。18日はそこから調整したものの、1.35を少し割れる程度で下落にとどまった。20日に発表された英8月小売売上高は、前月比1%上昇し、市場予想の前月比0.2%上昇を大きく上回った。その後は米FOMCを控えて、ドルはじりじりと売られる展開で、声明文の発表直前には、ポンド/ドルで直近高値の1.36近辺まで上昇した。米FOMCでは、再投資政策見直しによるバランスシート縮小への着手を決定し、米国の金融政策正常化が一步進んだ形となった。これについては市場の予想通りだったものの、ドットチャートで年内1回と来年3回の利上げペースが据え置かれたことや、イエレン議長の会見がややタカ派と捉えられたことなどから、ドルは主要通貨対比上昇し、ポンド/ドルで1.36近辺から1.35を割るところまで一気に下落した。22日、メイ首相はイタリアのフィレンツェで演説し、2019年3月の交渉期限後に2年間の移行期間を設け、移行期間中もEU予算を支払うことを提案した。メイ首相がEU離脱方針の詳細を示さなかったことなどから、英ポンドは一時的に1.3497まで下落したが、その後は小幅に上昇する展開となった。

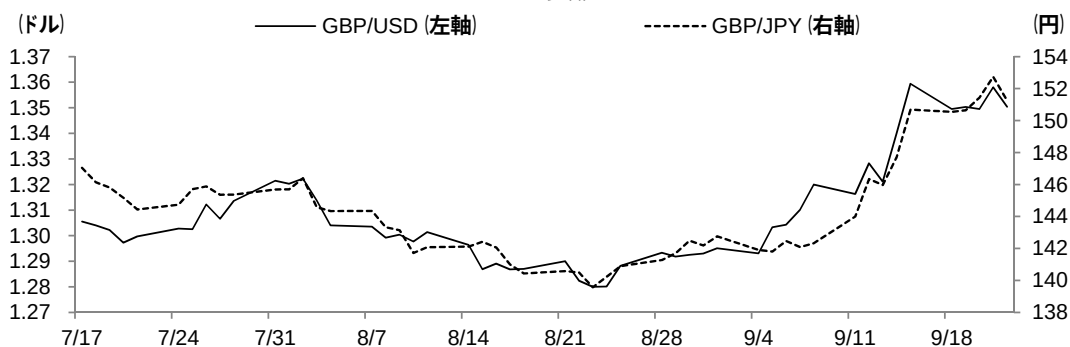
今週の英ポンド相場は、上昇を予想。注目されていたフィレンツェでのメイ首相の演説を通過し、市場は再び英中銀の早期利上げ期待に目を向けることとなるだろう。英ポンドはこの1か月、英中銀の早期利上げ期待から大きく上昇を続け、現在、対ドルと対円については、直近高値に近い水準にある。一番の懸念材料であったEU離脱交渉においても、22日にメイ首相が離脱交渉の打開案を示したことで、短期的にはもう一段の英ポンド上昇余地が見込まれるだろう。メイ首相は、移行期間中のEU予算の支払いを提案したうえで、貿易協定入りを要求し、EU離脱交渉を前進させようとする姿勢を示した。引き続き離脱交渉には不確実性が存在するものの、メイ首相の前向きな姿勢とEU予算の支払に対する提案は、一定の評価ができるだろう。短期的には英ポンドは上昇しやすい時間帯であると考えられる一方で、英中銀の金融緩和一部撤廃に対するスタンスには注意が必要である。英中銀はポンド安によるCPIの上振れについて警戒感を持っているが、仮に足元のポンド高が物価の押し上げを抑制するようであれば、利上げ期待の剥落に繋がりにくい。加えて、内需の弱さや消費者センチメントの低下などについては依然として議論の余地があり、英中銀が本当に数か月のうちに金融緩和の一部撤廃に舵を切ることが出来るのかについては、慎重に見極める必要があるだろう。

(3) 先週までの相場の推移

先週 (9/18~9/22) の値動き:

(対ドル) 安値 1.3450 高値 1.3659 終値 1.3495

(対円) 安値 150.14 高値 152.86 終値 151.26



4. 豪ドル

(1) 今週の見通しレンジ: 0.7800 ~ 0.8100 87.00 ~ 91.00 円

(2) ポイント [先週の回顧と今週の見通し]

先週の豪ドル相場は、レンジ内での推移となった。週初18日の豪ドルは0.80近辺でオープン。先週末の株高の流れを受けたリスクオンの動きから豪ドルは0.8035までじりじり上昇したが、海外市場に入り、米債利回り上昇を背景とした米ドル買いから、豪ドルは0.79台後半に反落した。翌19日は、豪州準備銀行(中央銀行、RBA)金融政策決定会合の議事要旨が強弱入り混じる内容となり、豪ドルは0.79台後半で上下する展開。海外市場に入り、FOMCを控えて積極的な売買が控えられる中、堅調な米株を受けたリスクオンの動きから、豪ドルは0.80台前半に上昇した。20日は、FOMCの結果発表直後に一時週高値となる0.8105をつけたが、タカ派的との見方が拡がると0.7986まで急落。売買一巡後、豪ドルは0.80台前半まで戻したが、21日はハト派(金融引締消極派)なロウRBA総裁発言と商品価格下落を受けて0.79台前半に弱含んだ。22日は特段目立った材料がない中で一時週安値となる0.7908をつけたものの、海外市場に入り、米債利回り低下による米ドル売りから、豪ドルは0.79台後半に上昇した。一方、対円では21日に週高値90.31円、22日に週安値88.47円をつけ、89円台前半で越週した。

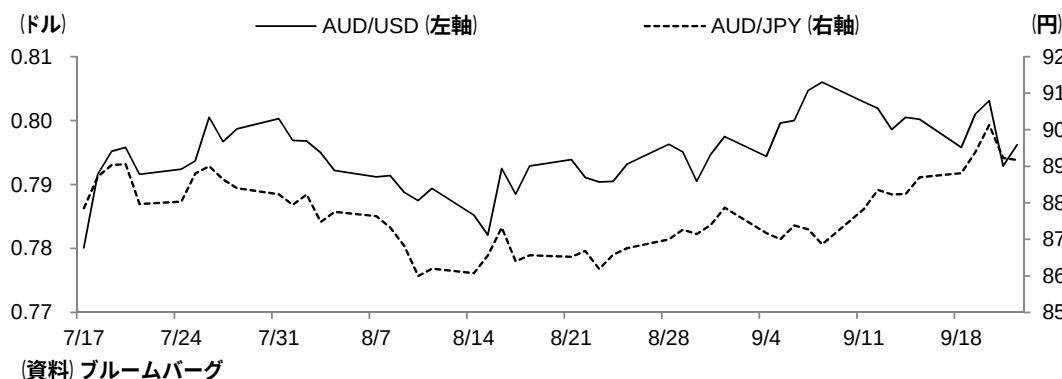
今週の豪ドル相場は、基本的には上値は限定的も底堅い推移を想定する。良好な国内経済指標が確認されることや、中国景気が堅調であること、また資源価格も良好であることなどを背景に、豪ドルがサポートされる展開は継続するであろう。RBAについても、8月の理事会で豪ドル高に対する懸念を表明したものの、その後は牽制するコメントは特段聞かれない中、中央銀行の高官発言により豪ドルが下落するリスクはそこまでない。また、FOMCというビックイベントを終え、グローバルにボラティリティが低下する中、キャリー通貨の一つとして選好される可能性もある。しかしながら、今週は重要イベントが予定されていない中、積極的に豪ドルを買い進める材料もないことから、上値も限定的となろう。但し、資源価格が下落する場合、中国経済に変調が確認される場合、米株等の下落によりグローバルにリスクオフとなる場合等については、投機筋の豪ドルロングポジションは相応に積みあがっており、値幅を伴って下落する可能性に注意したい。今週の注目材料としては、26日(火)にブロックRBA総裁補講演、28日(木)にデベルRBA総裁補講演、そして29日(金)に8月民間部門信用の発表が予定されている。

(3) 先週までの相場の推移

先週(9/18~9/22)の値動き:

(対ドル) 安値 0.7908 高値 0.8105 終値 0.7957

(対円) 安値 88.47 高値 90.31 終値 89.17



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。